

## 第5章 学校における実践事例

講座「北の杜に生きる」

### 山梨県立北杜高等学校

山梨県北杜市長坂町渋沢 1007-19

電話番号：0551 - 20 - 4025

E-mail：hokuto-k@pref.yamanashi.lg.jp HP アドレス：http://www.hokutoh.kai.ed.jp

#### 学校や地域に関する情報

##### (1) 学校規模

生徒数 778 名、教職員数 98 名、  
学級数 22 学級

##### (2) 学校の教育活動の特色

本校は、平成 13 年 4 月に峡北高校・峡北農業・須玉商業を統合し、3 校の伝統を引き継いだ総合学科・普通科・理数科を設置する総合制高校として開校した。学校生活全体の中で「学びの創造」「自己指導能力の醸成」「学校と家庭・地域との協働」を最重要課題として取り組んでいる。総合的な学習の時間も最重要課題として、全校体制で授業を行っている。

##### (3) 地域の特徴

本校のある北杜市は、山梨県北西部の八ヶ岳南麓に位置し、自然豊かな地域である。市域のおよそ 3 分の 1 が八ヶ岳南麓の冷涼な山岳高原地からなり、夏には高原観光客が多く訪れる。本校の学校行事等では、保護者・地域住民からの多大な協力・支援を受けている。

## I 総合的な学習の時間の全体計画

### 1. 目標

本校は、総合学科（生物資源・環境工学・情報ビジネス・福祉健康・国際文化の 5 系列）と普通科・理数科が設置され、多種多様なカリキュラムが組まれている。学科・系列の枠にこだわらず、それぞれの興味や関心に沿って、課題を見つけ、他者の考えに耳を傾ける中で、自分の在り方生き方を考える機会としたいと考え目標を設定した。

### 2. 資質、能力、態度

現代を生きる人間として必要となるであろう資質や能力を身に付けてほしい。「課題を発見する力」「情報・知識を得て活用する力」「問題を解決する力」「まとめる力」「自己の考えを発信する力」「コミュニケーションを図る力」という、育てたい 6 つの力を設定している。

### 3. 内容

各学年ごと共通のテーマ（1 年次「いのち」2 年次「つながり」3 年次「あした」）を設定している。また、課題にあった分野（自然・環境、福祉・共生、医療・健康、文学・歴史、情報・工学、国際理解・言語、地域・社会、芸術の 8 分野）ごとに分かれて学習する。前期は、テーマに沿って興味・関心のあることについて調べる中で各自が課題を見つける。文献やインターネット等を利用し探究を深め、レポートを作成

し発表する。後期は、校外調査活動（2年生）  
 ・ディベート（3年生）を行う。全学年ともま  
 とめとして、分野ごとの代表者が学年全体の  
 前で発表する機会を設けている。

#### 4. その他の特色

- 各学年とも1人3回は外部講師の講演を聴くことができる体制を整えている。
- 授業担当教員は、学年・学科・HRの枠をなくし、全職員体制で行っている。

### 〈全体計画〉

#### I 目標

現代を生きる人間として必要な、自ら進んで課題を見つける力、情報・知識を活用して問題を解決する力、自己の考えをまとめ上げて外へ発信する力を、一人一人の生徒が身に付け、自らが社会の一員であることを認識しながら、豊かな人間性を養い、未来を担う人材として成長する。

#### II 名称講座：「北の杜に生きる」

#### III 3年間の概要

1年次……学年サブテーマ：「いのち」

ビデオ教材や講話、体験学習を踏まえ、サブテーマの下、生徒各自がそれぞれの興味・関心に応じて個別の課題を設定・探究し、個人研究の形でレポートを完成し、発表する。

2年次……学年サブテーマ：「つながり」

1年次の探究活動を踏まえ、サブテーマの下、地域に密着した課題を設定し、実践的な活動（校外調査活動）も行いながら探究する。課題が共通するもの同士でグループを組み、最終的にグループ研究の形でレポートを完成し、発表する。

3年次……学年サブテーマ：「あした」

1・2年次の研究を踏まえた上で、自己の将来像と関連させて課題を設定し、人間としての在り方や生き方について考えながら探究を進める。課題についてのレポートを完成し発表も行い、1年間をかけて思考力や表現力を高め、最終的に分野別討論会を実施する。

#### IV 評価

個別課題研究の過程での取り組みやグループでの活動、完成したレポート等から総合的に評価する。生徒一人一人の個人内での伸長が見られたかを評価する。別に示す評価規準をもとに、評価の視点をもって評価を行う。

#### V 実施計画

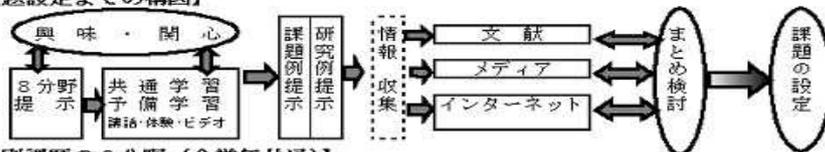
1 単位数・実施時限

通年1単位。1年生は金曜日の4校時、2年生は火曜日の6校時、3年生は水曜日の6校時に実施。

2 担当職員 (1) 係職員（総合的な学習の時間）……全体の企画・運営・調整

(2) 授業担当……1学年16名 2学年16名 3学年16名

#### 【課題設定までの構図】



#### 【個別課題の8分野（全学年共通）】

ア	自然・環境	イ	福祉・共生	ウ	医療・健康	エ	文学・歴史
オ	情報・工学	カ	国際理解・語学	キ	地域・社会	ク	芸術（音・美等）

#### 【個別課題設定の概念図（全学年共通）】 ……8分野とテーマとの関わり

※ 個別課題設定の概念図（全学年共通） ……8分野とテーマとの関わり

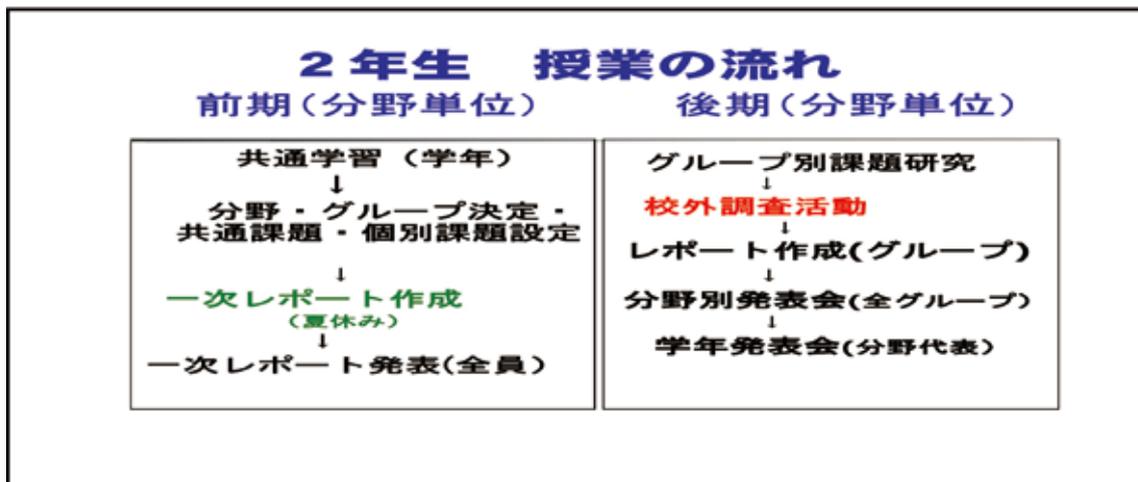


## II 総合的な学習の時間の実践事例

2学年 単元名「校外調査活動・事前事後活動、2次レポートの作成」

### 1. 年間指導計画

2年生は、前期に共通学習（オリエンテーション・講話など）を行い、それぞれの興味・関心に応じた分野に分かれて個人課題を設定する。6月には分野内で同じような課題を設定した生徒同士で3～6人程度のグループを作り調査活動を行い、レポートを作成する。後期は、グループごと、北杜市や周辺地域の事業所へ校外調査活動を行い、レポートの内容を検証し深化する。事前の事業所選定・アポイントや事後の礼状作成・発送は生徒が行う。校外調査活動では、協同的に取り組むことや自分の意見を伝えること、また、地域や社会との「つながり」を学ぶことを目標としている。



第5章

### 2. 単元計画

#### (1) 単元設定の理由

校外調査活動は、地域に密着したテーマに基づく調査活動を通して、社会的関心を喚起することを目的としている。

校外調査活動は、「行き先の選定・訪問先へのアポイント・依頼文の発送・質問事項の精査・移動経路の確認・礼状書き」をグループで行う。協力しないと難しい作業を続けることで、主体的・協同的に取り組む姿勢やコミュニケーション能力を身に付けていく目的もある。

2年生の年間テーマ「つながり」を、単元の活動を通して、いろいろな場面で意識でき、自分の在り方や生き方を考える機会になるよう設定した。

#### (2) 単元の目標

生徒は主体的・協同的に取り組み、普段の生

活の中から研究する。集めた資料や情報を整理・分析し、グループで話し合い課題を見付ける。活動全体を通じ、「つながり」を考えたまとまりあるレポート作成をする。

#### (3) 単元の評価規準

- ①学習活動への関心・意欲・態度：問題解決に向けて、グループとしての利点を生かしながら、主体的・協同的に学習活動に取り組む。
- ②知識・技能の応用、深化：グループの課題と仮説を再設定し、共同して資料を集め、その資料をグループで整理、分析する。
- ③総合的な思考・判断・表現：グループとして、調査活動を含めたまとまりのある問題が解決されたレポートを作成する。

## 2. 単元の指導計画

総合的な学習の時間第2学年単元計画						
単元名		校外調査活動・事前事後活動、2次レポートの作成				
単元の目標		1. 主体的・協同的に取り組むとともに、普段の生活の中から研究する。 2. 集めた資料を整理・分析し、グループとしての仮説を立てる。 3. 「つながり」を考えたまとまりあるレポート作成をする。				
単元の評価規準						
単元	①学習活動への関心・意欲・態度	②知識・技能の応用、深化	③総合的な思考・判断・表現			
Ⅳ校外調査・事前事後活動・2次レポート	問題解決に向けて、グループとしての利点を生かしながら、主体的・協同的に学習活動に取り組む。	グループの課題と仮説を再設定し、共同して資料を集め、その資料をグループで整理、分析する。	グループとして、調査活動を含めたまとまりのある問題が、解決されたレポートを作成する。			
指導計画・評価計画						
回	タイトル	形態	場所	時間	指導内容	評価資料
1	後期オリエンテーション	分野	各教室他	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1次レポートの検証をさせる。</li> <li>グループテーマの再設定をする。</li> <li>調査委場所を選定する。</li> <li>アポイントを取らせる。</li> <li>調査のための計画書を作成する。</li> <li>調査場所での質問・調査の内容を精査する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北の杜ノート</li> <li>校外調査用紙(計画書)</li> <li>学習場面での観察</li> </ul>
2	グループ課題研究	分野	各教室他	1		
3	グループ課題研究	分野	各教室他	1		
4	グループ課題研究	分野	各教室他	1		
5	校外調査活動	分野・グループ	各教室他	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話で活動の終了を連絡し、感想を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査活動の観察</li> </ul>
6	校外調査活動のまとめ	分野・グループ	各教室他	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動報告書を作成させ、提出させる。</li> <li>礼状を書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動報告書</li> <li>礼状</li> <li>学習場面での観察</li> <li>北の杜ノート</li> </ul>
7	グループ課題研究	分野	各教室他	1		
8	グループ課題研究	分野	各教室他	1		
9	グループ課題研究	分野	各教室他	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外調査をふまえて2次レポートの作成と提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北の杜ノート</li> <li>2次レポート</li> <li>学習場面での観察</li> </ul>
※ 使用する教室 (PC室・図書室・HR) は、分野ごと、事前に係で振り分ける。						

### 3. 学習活動の実際

2年生は、1年生での学習を踏まえ、地域に密着した課題を設定し、実践的な活動も行いながら、グループで取り組みレポートを完成させ発表する。

#### (1) 共通学習

年度当初、学年全体の共通学習を行い、総合的な学習の時間の意義や内容の説明、外部講師を招いての講演会を行う。生徒は、講演会の内容を理解し、生き方在り方を考えるとともに、「つながり」を意識し、分野に分かれるための準備をする。



講演会の様子

講演会の前後の時間で、生徒一人一人から分野希望調査を取り、生徒は8分野に分かれる。学科・系列の枠を超え、15～20人程度で1分野を構成し、自己紹介をして分野別の学習を開始する。



分野や課題を決めるためにウェビング法などを利用する。

#### (2) 個別課題の設定

分野に分かれて最初は、各個人が興味関心に応じて内容を考え個別の課題を設定する。個別課題の決定は、新聞や文献（図書室）やインターネット（PC室）を使いながら行う。同じような内容の生徒同士で3～5人のグループになり、グループの共通課題を設定する。最終的に個別課題とグループの共通課題の2つを決め、1次レポートを書く。レポートを書くため

に改めて新聞・文献・インターネットを利用しながら、内容を深めていく。内容を深めるために、分野別講演会を行うこともある。



分野別講演会

#### (3) 1次レポートの作成・発表

1次レポートは全員が書き、夏休み終了後の最初の授業から発表が始まる。レポートの提出あたっては、授業担当者・学年・担任など、ほぼ学校全体の教員が生徒一人一人と関わって指導を行っている。発表は、生徒相互の評価も行う。

発表者氏名		
テーマ		
発表時間		合計得点
声の大きさ・スピード	1・2・3・4・5	
読みのなめらかさ	1・2・3・4・5	
発表態度	1・2・3・4・5	
内容の濃さ	1・2・3・4・5	
内容・感想・コメント		

相互評価シートの例

発表者には、聞いた側のすべての評価が渡るように相互評価シートなどを活用している。



1次レポートの発表

#### (4) 校外調査活動・事前事後活動・2次レポートの作成

校外調査活動は、10月末から11月初旬に行う。1次レポートの発表後、1ヶ月程度の準備で活動に臨むため、グループごとの協同や協力が必要となる。生徒が主体的に取り組み、コミュニケーションをとるための重要な機会となっている。

手順は以下の通りである。

- ①グループのテーマ（共通課題）を再考する。  
事業所への質問を考える。
- ②グループのテーマを深く学習でき、公共交通機関で1時間以内の場所の地域にある事業所を探す。
- ③事業所にアポイントを取り、受け入れが可能か確認する。事業所の担当者を聞き、質問事項を伝える。
- ④活動計画書を作成する。
- ⑤活動日当日は、3校時まで平常授業を行い、4校時からの活動となる。活動終了後は、学校に連絡をし、感想等を伝える。
- ⑥活動報告書を作成し、礼状を書く。
- ⑦活動を通して学習したことを、2次レポートに盛り込みながらレポートを書く。校外調査活動では、毎年70程度の事業所が受け入れをしてくれている。地域の大人とのやりとりの中で、地域を意識し、他世代とのコミュニケーションの取り方（礼儀やマナーも含め）を学び、自分の身近なところで課題について考える機会になっている。また、活動を通して、計画の大切さや協力の大切さを知る機会ともなる。



校外調査の様子

#### (5) 2次レポートの発表(分野別・学年報告会)

冬休み後、分野別にグループの2次レポートの発表を行い、分野別に代表を選ぶ。生徒の相互評価と授業担当者の評価による総合的な評価で分野別に代表を選ぶ。代表グループは、学年報告会で、自分たちの調査・探究活動の成果を6分程度にまとめ、発表する。発表はプロジェクターを利用し、プレゼンテーション形式で行い、1年間の活動を終える。



学年報告会の様子

#### (6) 評価について

本校では、これまで行ってきた評価規準を見直す中で、学習内容の充実と生徒の学習活動への意欲・関心や知識・理解が深まり、教師の指導力の向上、評価と指導の一体化につながるような評価規準をつくろうと取り組んできた。平成22年度より以下のような形となっている。

- ①「学習活動への関心・意欲・態度」「知識・技能の応用・深化」「総合的な思考・判断・表現」の3観点で評価する。
- ②単元別の評価規準を作成する。
- ③北の杜ノート（生徒が毎時間の振り返りのために使うワークシート）によって、取組の様子を知るための資料として利用する。

#### (7) おわりに

本校の取組は、高校生活3年間の積み上げを目指して計画され、学年を追うごとに高い目標を設定している。「めざす姿」を生徒と教師が相互に理解し合って取り組んでいる。この学習の過程で見られる生徒の変容が教師として大きな喜びとなっている。

「論理的思考力を育てる『真庭トライ&レポート』（通称TR）」

## 岡山県立真庭高等学校（落合校地）

岡山県真庭市落合垂水 448-1

電話番号：0867 - 52 - 0056

E-mail：maniwa@pref.okayama.jp HP アドレス：http://www.maniwa.okayama-c.ed.jp/

### 学校や地域に関する情報

#### （1）学校規模

生徒数 375 名、教職員数 50 名、

学級数 普通科 7 学級

看護科・専攻科（5 年一貫）5 学級

※平成 23 年に県立落合高等学校が県立久世高等学校と再編統合し、県立真庭高等学校落合校地として新たに開校した。

#### （2）学校の教育活動の特色

普通科は 2 年生から、「探究類型（文系・理系）」と「生活教養類型（ビジネス系・家庭系）」に分かれて学習する。看護科は高い看護師国家試験合格率を誇る。一人一人に目配りし、手厚く丁寧に指導していくことが本校の伝統である。

#### （3）地域の特徴

岡山県北の中山間地で、周辺は少子高齢化が進んでいる。落合地区は静かで落ち着いた居住地域で、学校の近くに複数の基幹病院がある。保護者・地域住民の本校への期待は高く、協力的である。

の体験の質・量を高めていくことを指導の際、心がけている。

#### （2）表現活動を必ず設定する

公の場で堂々と発表できる能力を育成するため、公開の全体発表会を 2 月に開催し、プレゼンテーションやポスターセッションにより調べたことを発表している。その際外部から専門家を招いて助言をいただき、次年度の指導に生かしている。

#### （3）地域の教育力を取り入れる

近隣のこども園、小学校、役場のほか、病院、福祉施設、地元企業、名物「落合羊羹」製造工場などと連携し、地域に学ぶ探究活動を推進している。

校内名称「真庭トライ&レポート」の「真庭」は地域密着を、「トライ」は体験の重視を、「レポート」は必ず発表に結び付ける姿勢を、それぞれ意味している。

### 2. 育てようとする資質や能力及び態度

評価の観点として「課題への主体的な取組」「情報収集力、探究的分析力」「説明、発表の能力」を設定し、それが身に付いたときのイメージを学年団で共有している。

### 3. 内容

3 年間を通して段階的に発展していく活動を目指し、1 学年「HOW TO LEARN」（ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ）、2 学年「WHAT TO LEARN」（自分で課題を設定し、調べる）、3 学年「HOW TO LIVE」（進路実現・卒業後の生活のために学ぶ）と、各学年の趣旨を明確化している。一方で、テーマ設定や研究手法は学年団に委ね、教師集団が毎年創意工夫を生かして独創的な活動を展開している。

## I 総合的な学習の時間の全体計画

### 1. 目標

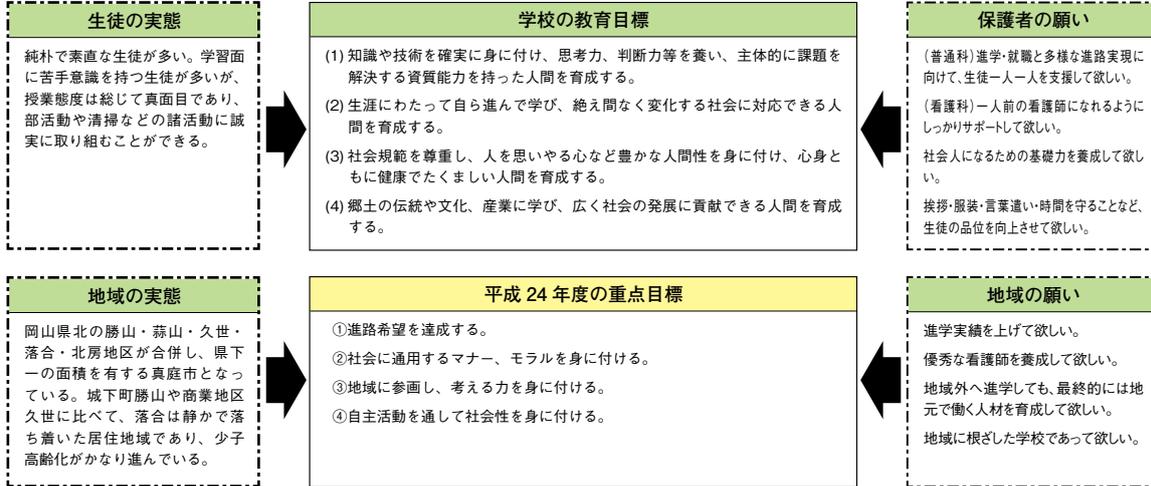
本校の総合的な学習の時間は次の 3 点を徹底して追究していることに特徴があり、目標もそれに準拠したものになっている。

#### （1）体験活動を重視する

インターネット等による調べ学習に終わるのではなく、実際に見に行き、話を聞き、実験やアンケートをするといった体験活動を重視し、こ

## 平成 24 年度 総合的な学習の時間 全体計画

岡山県立真庭高等学校（落合校地）



### 総合的な学習の時間の目標

- 1 探究的学習や進路学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。
- 2 情報収集や情報整理の能力を身に付けさせるとともに、プレゼンテーション機器などを用いながら公の場で堂々と発表できる能力を育成する。

育てようとする資質や能力及び態度	内容（学習事項）
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 探究的な学習や進路学習を通して、自ら課題をみつける。</li> <li>2 課題の解決に向けて、多様な社会活動に当事者意識をもって参画する。</li> <li>3 必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、実際の分析する。</li> <li>4 調査内容について、相手にわかりやすく説明する。</li> <li>5 自己の将来について具体的に考え、夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する。</li> </ol>	<p>校内名称「真庭トライ&amp;リポート（略称TR）」</p> <p>1 学年：課題別グループ学習（共通テーマ「地域防災」） 【1、2、3、4】</p> <p>2 学年前期：修学旅行を利用した職場体験学習 【1、2、3、4】</p> <p>2 学年後期：進路別課題学習（普通科） 看護臨床実習における課題学習（看護科） 【1、2、3、4】</p> <p>3 学年：進路別課題学習 【1、3、5】</p> <p>※【 】内の番号は、対応する「育てようとする資質や能力及び態度」を示す。</p>

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<p>週1時間（月曜日6限）</p> <p>1 学年： HOW TO LEARN ものごとを調べ、まとめる方法を学習する。</p> <p>2 学年： WHAT TO LEARN 自ら課題を設定し、調べ、まとめ、発表する方法を学習する。</p> <p>3 学年： HOW TO LIVE 自らの進路実現に向けて、具体的に必要内容を学習する。</p>	<p>HR 担任の枠を越え、各学年団全教員で指導にあたる。</p> <p>少人数グループを編成し、各担当教員の指導のもと、学習に取り組む。</p> <p>外部講師招聘や企業訪問など、校外へ積極的に赴く体験的な学習場面を設けるように配慮する。</p>	<p>TR推進リーダー、TR推進チーム、TR研究開発チーム、TR総務からなる実施組織を中心に指導体制を構築する。</p> <p>総学小委員会が全体計画・年間指導計画を作成する。</p> <p>全体計画に基づき、各学年団で具体的な学習活動計画を作成し、実施する。</p> <p>共有サーバーを利用し、ワークシートなど各学年間・過年度の資料を有効活用する。</p>	<p>総学小委員会で評価規準を作成する。</p> <p>学習の過程での取り組みや、完成したレポートなどから総合的に評価する。</p> <p>生徒一人一人の個人内で能力及び態度に伸びが見られたかどうかを中心に評価する。</p> <p>評価規準をもとに、観点別に評価を行う。</p>

各教科との関連	地域との連携	中学校や就職先・進学先との連携
<p>各教科指導において、表現活動（スピーチ・プレゼンテーション・ポスターセッションなど）を積極的に取り入れ、TRと関連づけて指導する。</p> <p>コンピュータや本・新聞・テレビなどを通して情報を収集する方法だけでなく、アンケートやインタビューなど自らの目と耳で直接情報を収集する方法についても、TRと関連づけて指導する。</p>	<p>病院・福祉施設・幼稚園・保育園・市役所などの地域の施設を活用する。</p> <p>卒業生・保護者を含めた地域の人材も活用する。</p> <p>落合・久世を中心とした真庭市という地域だけでなく、津山市・新見市といった近隣の地域にも目を向けて広く地域との連携を求めていく。</p>	<p>平素の取り組みについては適宜学校広報紙「おちまにトビックス」を通じて各方面に発信していく。</p> <p>年度末に学習成果の集大成の場として、1 年時ポスターセッション、2 年時プレゼンテーションによる全体発表会を行い、近隣中学校の教職員を招待し、活動内容について知らせる。また、地域の方々（卒業生の就職先企業など）を招待し、活動内容について知らせる。</p>

## II 総合的な学習の時間の実践事例

### 第1学年 課題別グループ学習

#### 1. 年間指導計画

課題別グループ学習の単元は、1年間を通して取り組む活動であり、2月に行われる全体発表会から逆算して、年間活動を以下の7つの段階に分けて指導にあたる。

- (1) テーマ導入 (2) テーマ設定  
(3) 探究活動計画 (4) 探究活動  
(5) まとめ (6) 発表 (7) 総括・フィードバック

「地域防災」を共通テーマに、4月下旬の宿泊研修で学年団「地域防災」イメージマップを作成し、これに基づき5つのプロジェクトチームを設立する。

- ①グローバル ②メディア ③ネットワーク  
④ハイスクール ⑤地域探索

生徒は自身の興味・関心、進路目標に応じて、上記①～⑤を選択する。さらに各プロジェクト内で4名前後のグループを編成し、具体的なテーマ設定後、探究活動に取り組む。

探究活動では、実体験を重視し、さらにその体験の質・量の向上を心がける。実体験を通して、課題に対する興味・関心を高め、課題解決に向けて意欲的に取り組むようになる。

まとめ・発表形態は、グループの活動内容に応じてポスターセッション・パワーポイントによるプレゼンテーションなど柔軟に対応する。聴衆とのQ & Aの時間を含めて1つの発表とする。一方的な説明ではなく、聞き手との円滑なコミュニケーション能力も身に付ける機会とする。

完成したまとめ冊子に目を通させ、他学年・他学科・他生徒の活動に目を向けるようにすることで、相互の刺激を期待する。

#### 2. 単元計画

##### (1) 単元設定の理由

全員が年間を通して1つの共通テーマに取り組むことで、次のような効果が得られると考え、この単元を構想した。

- 1つのテーマにも様々なアプローチの仕方があることを学ぶことができ、また自分の進路や興味関心に即して探究することができる。
- 探究から発表までの過程を長期間にわたりグループで協力して行うことで、協同的に取り組む態度を育てることができる。
- テーマを共通化することで、学び方やものの考え方といった方法について効率的に学ぶことができる。

##### (2) 単元の目標

- 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、学び方やものの考え方を身に付けるとともに、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。
- 探究した内容や自己の考えをまとめ、他者に発信する力を身に付けること。

##### (3) 単元の評価規準

研究の過程での取組、発表やレポート等から総合的に評価する。3つの観点を設定し、それぞれの評価規準に基づいて評価を行う。

評価の観点	課題への主体的な取組	情報収集力、探究的分析力	説明、発表の能力
評価規準	自分と課題との『つながり』に関心を持ち、当事者意識を持って主体的、意図的、協同的に学習活動に取り組んでいる。	課題について総合的、教科横断的な情報を広い範囲から収集し、表面的でなく体験的、多角的、探究的に分析している。	調査内容についてプレゼンやポスター等で整理されたわかりやすい資料を作成したり、公の場で堂々と発表している。

(4) 単元の指導計画

平成24年度 真庭トライ&レポート(略称TR) 第1学年 指導計画

時間数	場面	具体的な活動	形態	活動場所
4	(1)テーマ導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「地域防災」マインドマップ作成【個人→グループ→HR→発表】</li> <li>■平成23年度総学TRまとめ冊子の配布と説明</li> <li>■平成24年度総学TR課題別グループ学習 全体ガイダンス</li> </ul>	各クラス 学年全体	友愛の丘
3	(2)テーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>■プロジェクトチーム内グループ割り</li> <li>■テーマ設定についてプロジェクト別ガイダンス</li> <li>■テーマ設定</li> </ul>	各プロジェクト	校内⑤会場
2	(3)探究活動計画	■年間活動計画の作成(テーマ・活動計画書の提出)	各プロジェクト	校内⑤会場
18	(4)探究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実体験を通じた探究活動であること</li> <li>自分の目で見、耳で聞く、手で触れる、足で訪れる。</li> <li>土曜日や定期考査午後など体験の質・量を高める。</li> <li>メディア情報(本・TV・PC)のコピペだけにならないように。</li> <li>・情報Aの授業がないので、パソコンでの情報収集方法は身に付ける必要あり。</li> <li>・各プロジェクトで外部講師講演OK</li> <li>・校内外インタビュー・アンケート(生徒・教員・保護者・地域)</li> <li>・調査・実験・実習・制作・カメラ・ビデオ活用・パソコン</li> </ul>	各プロジェクト	校内⑤会場 校外
5	(5)まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■パワーポイント・ポスターセッションなど発表準備</li> <li>・パワーポイント作成マニュアル有り</li> <li>・ポスターセッション作成マニュアル有り</li> <li>まとめの活動は発表に向けたものだけでなく、まとめ冊子作成を見据えたもの。</li> </ul>	各プロジェクト	校内⑤会場
5	(6)発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>■発表練習</li> <li>■プロジェクトチーム内発表会(プレゼン後のQ&amp;Aも重視)。</li> <li>■全体発表会に向けた発表練習・原稿の修正</li> <li>■まとめ冊子原稿作成</li> <li>・パワーポイント→スライド8枚+手書きメモをA4タテ1枚で。</li> <li>・ポスターセッション→ポスター2枚の画像+セッション風景をA4タテ1枚で。</li> <li>■校内総学TR全体発表会</li> </ul>	各プロジェクト 学年全体 学校全体	校内⑤会場 体育館
2	(7)総括・フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まとめ冊子を見ながら他学年・他学科・他生徒の取り組みに目を向ける。</li> <li>■年間総括アンケート</li> </ul>	各クラス	各HR

プロジェクト名	活動予定内容
①グローバル・プロジェクト	Think Globally, Act Locallyをテーマに、国際的な視点で防災について考え、身近なところで何ができるかを考える。
②メディア・プロジェクト	メディア(テレビ・ラジオ・新聞・広報紙・コンピュータなど)と地域防災との関連について考え、地域防災に役立つメディアを制作する。
③ネットワーク・プロジェクト	地域のこども園・小学校・中学校・市役所などを訪れて地域防災の取組について調べ、高校生にできることを提案する。
④ハイスクール・プロジェクト	夏休みに合同合宿が予定されている兵庫県高校・宮城県高校の取組について調べ、真庭市地域防災に活かせる活動を提案する。
⑤地域探索プロジェクト	防災に対する個人の課題・家庭の課題・地域の課題について調べ、地域に役立つ活動を実施する。

※各プロジェクトに複数教員を割り当て、出張休暇等に柔軟に対応するとともに、教員の協働体制を整える。

グループ	プロジェクト名	共通テーマ「地域防災」 → プロジェクト別グループ設定テーマ	発表形態
1	①グローバル・プロジェクト	アジア留学生との交流を通して	ポスターセッション
2		日本の歴史的な災害を通して、避難訓練について考える	ポスターセッション
3		世界の歴史的な災害を通して、防災時に注意すべきことについて考える	ポスターセッション
4	②メディア・プロジェクト	避難所マップ	展示・パワーポイント
5		防災CM作成	パワーポイント・展示
6		防災HP作成	パワーポイント・展示
7	③ネットワーク・プロジェクト	小学校の防災への取組調査	パワーポイント
8		災害情報伝達システム	提示装置
9		小学校避難訓練実態調査(高校生に出来ること)	パワーポイント
10		地域住民防災意識の調査	提示装置
11	④ハイスクール・プロジェクト	被災地の女子高校から学ぶ	パワーポイント
12		兵庫県高校の取組について調べ、自分たちにできることを考える	ポスターセッション
13		他の学校の取組と自分たちにできること	ポスターセッション
14	⑤地域探索プロジェクト	校内の防災役立ちグッズ・マップ制作	ポスターセッション
15		真庭市防災について(高校生にできること)	ポスターセッション
16		学校近隣住民の防災意識調査	パワーポイント
17		防災クイズ制作(高齢者対象)	パワーポイント

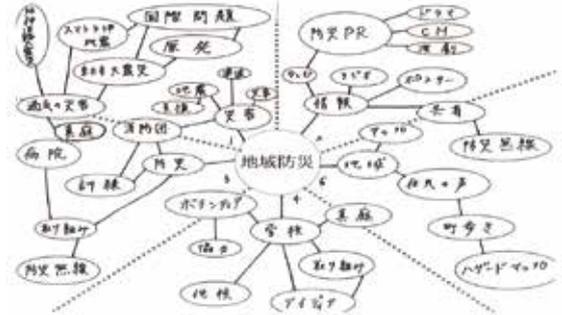
### 3. 学習活動の実際

#### (1) テーマ導入 (各クラス・学年全体)

4月下旬の宿泊研修において、真庭トライ&リポートについて説明し、共通テーマ「地域防災」を導入した。



個人で思い付くことをイメージマップに書き込み、班で話し合い、次に、班ごとに発表する。最後に、クラスで1つのイメージマップにまとめ、翌日の学年全体会で発表する。

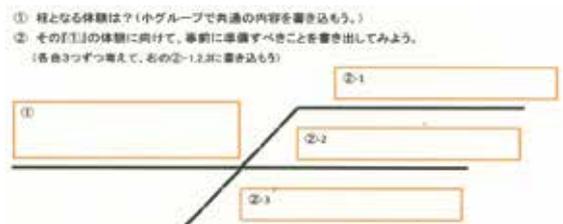


各クラスのイメージマップを1つにまとめ5つのプロジェクトチームを設立する。

テーマに対するアイデアを出したり、広げたり、ものごとを関係・関連づける活動としてイメージマップは大いに役立ち、生徒はテーマに対する興味関心を高めた。

#### (2) テーマ設定 (5プロジェクト別)

「エコカーについて(例)」といった抽象的なテーマでは、探究活動において調べ学習に終始する可能性が高い。そこで、くま手チャートを用いて、まず柱となる体験を考え、その前後に必要な活動を考える取組を通して、テーマ設定を行う。



#### (3) 探究活動計画

(2) のくま手チャートをもとに全体発表会から逆算し、(4)～(6)の活動計画を立てる。



#### (4) 探究活動

探究活動においては、体験の質・量を高めるために、土曜日や定期考査午後の有効活用も行う。



↑「グローバルプロジェクト」では、近隣学校のアジア人留学生から各国の災害や防災訓練などについて話を聞き、その背景にある文化についてまとめる活動に取り組んだ。



↑「メディアプロジェクト」では、指定避難所周辺を調査し、避難時に注意すべき場所などのメモを作成した避難所マップに書き込んだ。

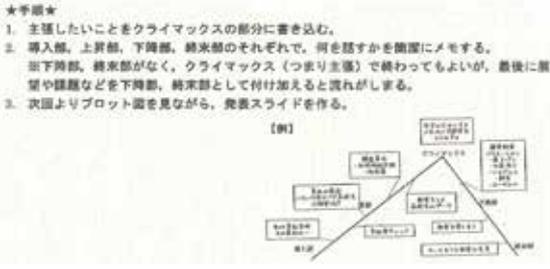
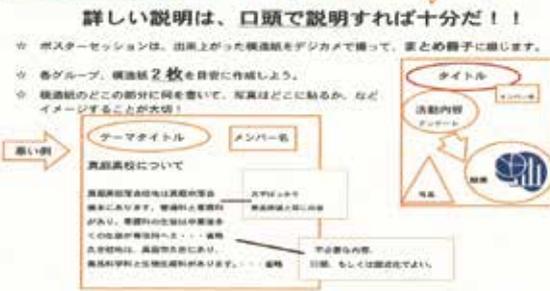
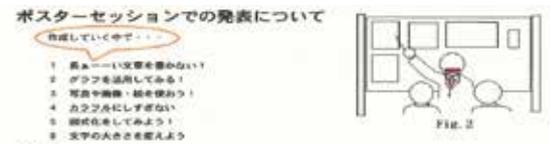


↑「地域探索プロジェクト」では、防災カ

ルタを作成し、地域の方々と楽しむ活動を通して、防災意識を高める取組を行った。

### (5) まとめ

パワーポイントでの発表とポスターセッションでのマニュアルを校内で共有している。



↑プロット図を使って、プレゼンテーション

の流れについて考えるイメージ図 (2年生)

### (6) 発表

2月中旬に行われる校内全体発表会には、校外から多くの方々が訪れ、ポスターセッションに参加してもらっている。



↑一方的な説明に終わらず、説明後のQ & Aまで意識したポスターセッションの様子。



↑ステージで発表する代表生徒は、自らの体験をもとに話すので、自信に満ちている。

### (7) 総括・フィードバック

1年生・2年生の各活動をすべて1冊にまとめた冊子を作成する。この冊子に目を通すことで、他学年・他学科・他生徒の取組を知り、相互に刺激を受けることを期待している。

### おわりに

本校では、論理的思考力育成に向けて、シンキングツールの活用に取り組んでいる。今後更に、活動の7つの段階それぞれに適したシンキングツールやワークシートを整備し、充実させたい。ただし、形ばかりのシンキングツールの活用に行けば、思考を助ける道具であるべきものが、思考の浅い機械的作業につながるということに留意しなければならない。

また、真庭トライ&リポートの柱である「体験」の質・量をいかに向上させていくかが今後の課題の1つである。大学・地域等との連携を継続的に行い、生徒の体験を確保する体制を確立したい。

「表現力の育成を目指す総合的な学習の時間の工夫改善」

## 広島県立安芸南高等学校

広島県広島市安芸区矢野西二丁目 15-1

電話番号：082 - 885 - 2341

<http://www.akiminami-h.hiroshima-c.ed.jp>

### 学校や地域に関する情報

#### (1) 学校規模

生徒数 751 名、教職員数 51 名、

学級数 19 学級

#### (2) 学校の教育活動の特色

校訓「創造・自立・健康」にあるように、知・徳・体の調和がとれた全人教育を実践し、社会において有為な人材を育成することを目指している。近年は、言語活動の充実と「学習者中心の授業への転換」をテーマに授業改善を進めている。

#### (3) 地域の特徴

地元である矢野町は江戸期から大正期にかけて、和カツラである髷(かもじ)産業で栄えた町であった。昭和 30 年代から機械・金属などの工場が進出し、40 年代以降、住宅団地が造成され都市化が進んでいる。本校は、昭和末期に造成された東部工業団地に位置している。

をたくましく生きる人間を目指して、在り方生き方を生徒自身が自ら探究し、発見できる力を養いたい。

#### 2. 資質、能力、態度

自ら意欲的に学び、創造するための資質や能力を育成するために、「人間関係形成社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を養う。また、主体的に自己の在り方生き方を考えることによって、心豊かで節度のある人間を育て、たくましく生きる態度を育成する。

#### 3. 内容

1 学年は、自らを振り返ることに重点を置くとともに将来の展望をもつため、自分史研究・総学新聞・希望別のゼミ形態によるグループ課題研究を行う。2 学年は、北海道研修旅行(就業体験を含む)における課題別グループ研究を中心に、希望別のゼミ形態による個人課題研究・レポート作成・社会問題に関する論文作成等を行う。3 学年は、将来へ向けて自己の適性を考える点に重きを置き、個人学習・グループ学習を随時繰り返しながら探究活動を行う。

#### 4. その他の特色

言語活動を充実させ、校内全体で取り組むために総合的な学習の時間と各教科との関連を図り、プレゼンテーションの機会を多く設けるよう努めている。また、全教科において書く活動と生徒同士の相互評価活動を基軸とした授業を構成し、習得・応用の過程にノート作り(整理・補足・要約)を位置付け、その定着を図っている。

## I 総合的な学習の時間の全体計画

### 1. 目標

本校の生徒は、規律性・協調性が高い反面、どちらかといえば受身で、主体的・論理的に思考する作業に苦手意識をもっている。したがって、生徒が「主体的に考える」機会を多く設定し、受け身になりがちな授業を改善するように努めている。教科横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、協同的な言語活動を豊かにしていく。そのことによって、学び方・考え方を身に付け、課題発見・解決の力を高め、未来

〈全体計画〉

総合的な学習の時間全体計画 広島県立安芸南高等学校

<p><b>生徒の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶がよくでき、遅刻が少ないなど基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多い。</li> <li>クラブ活動の加入率が高く、行事等にも積極的に参加することができる。</li> <li>自主性・自立性に欠ける面、つまり、自分を律する力が不足している面が見られ、学習面でも生活面でも教員側の指導や指示が必要である。</li> </ul>	<p><b>学校の教育目標【校訓は「創造・自律・健康」】</b></p> <p>未来にたくましく生きる人間を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎意欲的に学び、自ら創造する人間の育成</li> <li>◎生活を自ら律し、節度のある人間の育成</li> <li>◎健康で、心豊かな人間の育成</li> </ul>	<p><b>学校、課程、学科の実態 教職員の願い</b></p> <p>全19クラスの全日制普通科校入学者の約8割が地元中学出身者で、約9割が進学している。「教師と生徒、及び生徒相互の人的なふれあいを大切にし、厳しく徹底した教育活動」を「文武琢磨」の言葉に込めて、勉学と部活動の両立を目指した教育活動を展開。自律性の涵養が教職員の最大の願いである。</p>
<p><b>地域・保護者の実態及び願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・保護者は学校の教育活動に協力的で、大きな期待を寄せている。</li> <li>本校が安心して通わせることのできる生活規律の確立した学校となり、豊かな人間性を涵養することを願っている。</li> </ul>	<p><b>総合的な学習の時間 【NANIKA“S”PROJECT】の目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自ら意欲的に学び、創造するための資質や能力を育成する。具体的には、ア人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を養う。</li> <li>②主体的に自己の在り方生き方を考えることによって、心豊かで節度ある人間を育て、たくましく生きる態度を育てる。</li> </ol>	<p><b>キャリア教育との関連 (キャリア教育指導目標)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な他者の考えや立場を理解し、自分の役割を果たしつつ、他者と協力・協働する。</li> <li>自己の肯定的理解に基づき主体的に行動するとともに、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために学ぼうとする。</li> <li>様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる。</li> <li>自ら果たすべき役割を踏まえて、「働くこと」を意義付け、多様な生き方に関する情報を適切に取捨選択・活用しながら、自らのキャリアを形成していく。</li> </ul>
<p><b>地域や大学との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々とかかわり合い、学ぶ機会を設定して連携を図る。</li> <li>大学出張講義及び進学体験学習で地元大学と連携する。</li> </ul>	<p><b>【NANIKA“S”PROJECT】の内容</b></p> <p>1年生:これまでの自分を整理する活動を通して実感したことを基に、社会と将来の自分とのつながりを考え、自己の在り方生き方について探究するとともに、それをまとめ発表する技能を習得する。</p> <p>2年生:進学体験学習等を通して広げた「学ぶ」ことについての見識を基に、社会と将来の自分とのつながりを考え、自己の在り方生き方について探究するとともに、それをまとめ発表する技能を活用する。</p> <p>3年生:これまでの「働く」、「学ぶ」ことについて深めた見識を基に考えた、将来の自己の在り方生き方の実現に向けて探究するとともに、それをまとめ発表する技能を集成する。</p>	

**平成23年度の【NANIKA“S”PROJECT】の重点的な取組み**

①1年生においては、【NANIKA“S”PROJECT】と教科・科目(特に国語総合・現代社会・保健・家庭基礎・情報A)とを効果的にリンクさせて、生徒の内容理解の深化を目指す。

②2年生においては、平成22年度に始めた北海道研修旅行の実施に当たって、【NANIKA“S”PROJECT】の内容の更なる充実・発展を目指す。

	1年生	2年生	3年生
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介・高校生活の目標設定。</li> <li>職場体験等を通じて自らの適性を考える。</li> <li>社会に関心を持ち、考えをまとめる。</li> <li>自分で選択したテーマに沿って、意見や考えを表現する。</li> <li>生徒発表会Ⅰ(安芸南ゼミ)</li> <li>大学出張講義(安芸南大学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の適性から、将来必要な学問分野を調べる。</li> <li>進学体験や就業体験の報告文を作成する。</li> <li>研修旅行の目的を理解し、事前学習を行う。</li> <li>自らの研究テーマを設定し、調査学習を行った上で意見や考えをまとめる。</li> <li>生徒発表会Ⅱ(安芸南ゼミ)</li> <li>大学出張講義(安芸南大学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の特性や考えを表現する。</li> <li>自分の意見や考えを正確に伝える。</li> <li>将来の志望分野について探究する。</li> <li>自己の適性と分野を理由付けして表現する。</li> <li>生徒発表会Ⅲ(安芸南ゼミ)</li> <li>3年間の総合的な学習の時間に学んだことを再確認する。</li> </ul>
指導方法及び指導体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教育研究部を中心に、進路指導部と連携して指導内容の企画・立案を行う。</li> <li>②1学年主任、正・副担任等からなる1学年会が中心となって内容検討、指導を実施。必要に応じて外部講師を招聘して講演会等を実施。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教育研究部を中心に、進路指導部と連携して指導内容の企画・立案を行う。</li> <li>②2学年主任、正・副担任等からなる2学年会が中心となって内容検討、指導を実施。必要に応じて外部講師を招聘して講演会等を実施。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教育研究部を中心に、進路指導部と連携して指導内容の企画・立案を行う。</li> <li>②3学年主任、正・副担任等からなる3学年会が中心となって内容検討、指導を実施。必要に応じて外部講師を招聘して講演会等を実施。</li> </ol>
学習の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の自己評価及び相互評価</li> <li>②レポートなどの提出物の評価</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の自己評価及び相互評価</li> <li>②レポートなどの提出物の評価</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の自己評価及び相互評価</li> <li>②レポートなどの提出物の評価</li> </ol>

教科等における【NANIKA“S”PROJECT】との関連				
教科	特別活動			道徳教育
	学級活動	学校行事	生徒会活動	
<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃の教科学習が生徒一人一人の在り方生き方や将来の進路と深く結び付いていることを学ぶ。</li> <li>社会・職業生活に必要な基本的能力や態度及び望ましい勤労観・職業観を育成する。</li> <li>教科の学習内容を相互にリンクさせ、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、課題設定・課題解決能力の育成に資する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級内の組織づくりや仕事の分担等により協力・協調の精神を養う。</li> <li>生活上の諸問題の解決を通じて自律性や問題解決能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事の企画、運営、自主的な活動を通じて、他者と協力し、コミュニケーション能力を高める。</li> <li>学校行事を通じて、自分の果たす役割を自覚し、積極的役割を果たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会行事の運営を通じて、リーダー・フォロアシップを発揮しチームワークを高める。</li> <li>学校生活のルールやマナーを遵守することにより、社会性を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、現代社会の課題に取り組むことは、自己の在り方生き方について探究することにつながる。また、主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を表現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度を育てることは、道徳性の涵養に資する。</li> </ul>

## II 総合的な学習の時間の実践事例

### 第2学年单元名 NANIKA(学校の略称 AKINAN を逆さにしたことば)を解明しよう ーファームステイを通じてー

#### 1. 年間指導計画

1学年においては、「自分史研究」から「博物館・社会見学」に至る一連の活動を行うが、ここでは、自分と社会との関わりを意識し、勤労観・職業観を培う中で、学習成果を「総学新聞」にまとめていく。その流れを受けて、2学年では、北海道研修旅行と関連付けて、北海道をテーマにしたマインドマップにより課題を想起し、グループ調査や研究活動を行う。自己評価と生徒間の相互評価を軸に、それぞれが選択したテーマの枠を越えて検討を行った上で、「壁新聞」を作成する。さらに、それをクラス内で評価し合った後に、文化発表会及び実践発表会においてプレゼンテーションの場を設け、保護者や地域の方々を含め学校全体に探究活動の成果を披露する。(ポスターセッション形態で実施)その後、研修での体験や習得したスキルを生かし、ゼミ活動を経てレポート・論文作成を行う。

〈2学年〉

時期	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
单元	NANIKAを解明しよう										
	北海道研修旅行 課題別グループ研究					各々の進路に関わる課題別個人研究					
目標	研修旅行や大学見学活動等を通して広げた「学ぶ」ことについての見識をもとに、社会と将来の自分との繋がりを考え、自己の在り方・生き方について探究し、将来の目標を発見する。										
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査学習及び分析</li> <li>課題別グループ研究</li> <li>大学見学</li> <li>マナー講習</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>資料調査及び分析</li> <li>レポート作成</li> <li>論文作成</li> <li>大学出張講義</li> </ul>					
身に付ける言語技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学見学の記録・報告文の作成力</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を基に自己の論理を構築する力</li> <li>自己の論理を的確に表現する力</li> <li>発表活動による自己表現力・プレゼンテーション能力</li> </ul>					

#### 2. 单元計画

##### (1) 单元設定の理由

生徒が進路や将来について考える際、自分が育った地域や社会を見直し、何らかの貢献をするためにも他地域の特色を学び、比較することは大切である。そして、共通点や相違点を認識することで、自らの地域を見つめ直す契機になると考える。しかし、意外と自分たちの地域や地場産業については把握できておらず、当然、研修で訪れる北海道についてもありきたりな知識しか持ち合わせていない生徒が多い。そこで、①北海道に係るプレゼンテーションに必要な内容知・方法知を獲得する、②ファームステイをはじめとする体験学習により勤労観を培う、③仲間と協同して実体験をしなければ得られない事柄について探究を深める、この3点を

目指して本单元を設定した。

##### (2) 单元の目標

体験学習で得たものを主体的に自己の在り方生き方に反映し、視野を拡大するとともに、学習成果を言語活動を通じて適切に表現できるよう諸スキルを身に付ける。

##### (3) 单元の評価規準

- ①体験学習に積極的に取り組むことができる。
- ②自分の役割を自覚した上で、仲間と協同して活動に取り組むことができる。
- ③自分が調べたいテーマに沿って、効率よく調べ学習ができる。
- ④自分の考えや体験したことを、自分の言葉で表現したり、発表したりすることができる。

これら4点の評価規準を設け、生徒の自己評価及び相互評価、ポスターやレポート等の提出物により評価を行う。

(4) 単元の指導計画

名称	【第2学年】NANIKA“S”PROJECT（Sは、総合の頭文字）					
目標	教科横断的総合的な学習や探究的な学習を通して、生徒の協同的な言語活動を豊かにしていく。そのことによって、学び方・考え方を身に付け、課題発見・解決の力を高め、未来にたくましく生きる人間を目指して、在り方生き方を生徒自身が自ら探究し、発見できる力を養う。					
育てようとする資質や能力及び態度	①自ら意欲的に学び、創造するための資質や能力を育成する。具体的には、ア人間関係形成・社会形成能力、イ自己理解・自己管理能力、ウ課題対応能力、エキャリアプランニング能力を養う。 ②主体的に自己の在り方生き方を考えることによって、心豊かで節度ある人間を育て、たくましく生きる態度を育てる。					
内容	進学体験学習等を通して広げた「学ぶ」ことについての見識を基に、社会と将来の自分とのつながりを考え、自己の在り方生き方について探究するとともに、それをまとめ発表する技能を活用する。					
付与する単位数	1単位					
授業時数の配当方法	特定曜日に常置するが、校外学習活動や、校内での一斉学習活動（学年単位）を行う場合は、集中的に実施する。					
教材の使用等	ワークシート、資料調査によって得られる情報等を、適宜使用する。 3年間の学習の軌跡を1つのファイルで整理する。					
評価規準・評価方法	<b>評価規準</b> ①体験学習に積極的に取り組むことができる。 ②自分の役割を自覚した上で、仲間と協同して活動に取り組むことができる。 ③自分が調べたいテーマに沿って、効率よく調べ学習ができる。 ④自分の考えや体験したことを、自分の言葉で表現したり、発表したりすることができる。 <b>評価方法</b> ①生徒の自己評価及び相互評価 ②レポートなどの提出物の評価					
学習形態	個人・グループでの探究的な活動、クラス単位・学年単位での一斉学習。					
指導体制	教育研究部を中心に、進路指導部と連携して企画・立案し、学年会を通してクラス担任・副担任が主として実施する。講師を招へいし、講演会を実施する。					

単元	月	探究の過程	学習内容・学習活動	時数	学習形態	各教科・特別活動等との関連・指導上の留意点等
NANIKAを解明しよう	4月	設定収集	NANIKAを追究しよう①②③ (北海道研修旅行の目的理解)	3	個人研究 グループ学習 一斉講義	国語科・地歴公民科・家庭科との関連を図る。
	5月	設定収集分析	NANIKAを追究しよう④⑤ (北海道課題研究Ⅰ) (働くことへの意識) (各自の将来に必要な学問分野の調査)	3	個人研究 グループ学習 一斉講義	勤労観を培い、研修におけるファームステイへの意欲を高める。
	6月	収集分析	進学体験学習の事前指導①② (自己選択した分野の調査) 進学体験学習	2	個人研究 グループ学習 一斉講義	上級学校との連携を図るとともに研修旅行との関連に留意する。
	7月	整理まとめ	進学体験学習の事後指導 NANIKAを追究しよう⑥ (北海道課題研究Ⅱ)	3	個人研究 一斉講義	国語科との関連で文章の書き方を活用する。
	8月	収集整理	NANIKAを追究しよう⑦ 研修旅行事前指導 (北海道課題研究Ⅲ)	1	一斉講義	特別活動との関連を図る。
	9月	収集整理まとめ	NANIKAを追究しよう⑧ 研修旅行まとめ(展示発表の準備) (北海道課題研究Ⅳ)	4	個人研究 グループ学習	研修旅行との関連を図る。 情報科との関連を図る。 文化発表会・実践発表会との関連を図る。

### 3. 学習活動の実際

自己の興味・関心に基づく探究活動を行う際、探究の深化に向けて、諸言語活動を有効に関連付け、生徒相互の評価を取り入れた主体的な言語活動の在り方を工夫している。1学年においては、「探究スキルの習得」をねらい、ウェビングやKJ法的手法、資料調査法を学び、表現活動として「総学新聞」作成を行っている。2学年においては、ポスターセッションまでの学習過程で、これまでに習得した調査法を活用して取組を進めている。また、相互評価活動を積極的に取り入れることで、生徒自身が表現力の向上には何が必要かを考えられるようにしている。

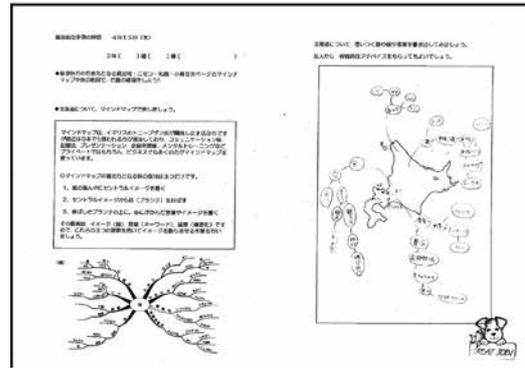
各単元において教科の学習内容と総合的な学習の時間との関連を図って、「知の総合化」を目指した取組を行う。具体的には、総合的な学習の時間で教科の学習内容を想起して、「内容知を効果的に結び付けて考える」ことについての重要性を生徒に意識するようにしている。さらに、「総合的な学習の時間」で学んだ「習得→活用→探究」の学習サイクルが、各教科の授業にも取り入れられるようになり、教科学習でグループ学習や相互評価活動が定着しつつある。とりわけ、2年生の北海道研修旅行に関わっては、実施の約2ヶ月前から「北海道ウィーク」と称して、各教科で関連する事項を授業内容に取り入れ、教科と総合的な学習の時間との関連を図るように努めている。

#### (1) 課題の設定

2学年当初より研修旅行を充実させるため、訪問先について知るとともに、自分たちが暮らしている地域についての見直しを行い、知識を深めることに努める。まず最初に北海道についての知識を列挙してみる。数多くの物産が存在していることを理解し、気候・地理的条件・経済等、各自が関心をもてることについて意識を高める。続けて、個人の知識や協同作業で他者から提示されて気付いた点を関連させてマイ

ンドマップを作成する。同様に、比較対象として、自分たちの地域についても整理を行う。北海道と広島県の共通点や相違点を把握し、テーマを絞り込みながら北海道レポートに着手し、課題設定理由を明確にしていく。

#### ◆マインドマップ



#### (2) 情報の収集

各自が北海道レポートに記入したことをさらに深めていくために、インターネットや図書室を活用して調査学習を行う。

また、各教科で北海道に係る学習を行う「北海道ウィーク」を設け、生徒の興味・関心を高め、情報を提供することでグループ調査との関連付けを図る。

#### ◆北海道レポート



#### (3) 整理・分析

これまでに習得したウェビングやKJ法的手法などを用いて、情報の整理を図りつつ、ブレーンストーミングやグループ相互に評価する活動を通して分析を行う。また、「進学体験学習」を実施し、北海道研修のテーマや希望進路の方向性とのつながりを模索することで課題意

識を高めていく。

#### ◆ファームステイでの農業体験



#### (4) まとめ・表現

探究活動の成果については、生徒間の相互評価により検討を加えながら、「壁新聞」としてまとめる。この新聞については、クラス内で評価し合った後に、文化発表会及び実践発表会において、ポスターセッション形態でプレゼンテーションを行う。

#### ◆ポスターセッション



生徒たちが調べた事柄に関して、相互評価や発表を繰り返し、改善点を指摘し合う活動を通して、より正確な資料検索や効果的な発表方法を主体的に工夫できるようになる。その結果、自己表現活動への意欲の高まりが期待できる。

また、「北海道ウィーク」を各教科で授業内容に取り入れることは有効である。ただし、今後、教科の全体的な指導内容との関係付けを整理することが必要である。加えて、「『総合的な学習の時間』の展開を各教科の指導と関連付けて体系化していく」ことを課題としたい。

「北海道研修旅行課題別グループ研究」の単元終了後には、12のゼミを開講し、個人研究を行った。グループ研究同様、マインドマップを活用して自分の関心のあるテーマから発想し、課題を設定して取り組んだ。ここでは、ゼミ担当教員の指導を通して、自らの志望進路を意識しながら、“SMALL-STEP”での探究活動を行った。

この探究活動については、「小論文形式」「写真や図表を取り入れたレポート形式」で記録を作成する。その過程で培われる表現力は、3学期に取り組む「小論文学習」において、立論・展開の工夫、意見表明の仕方等、様々な場面で生かされていく。

#### ◆安芸南ゼミ探究活動レポート



2学年の学習では、これまでの自分を振り返り整理する活動により実感したことを基に、北海道研修や進学体験学習を通して社会と将来の自分とのつながりを考え、自己の在り方生き方について探究する。その上で、探究内容をまとめて発表するための技能も身に付けていく。3学年では、この「働く」「学ぶ」ことに関して深めた諸能力を基に、各自が目標とする在り方生き方の実現を目指し、探究を進めていく。

今後に向けては、①表現力向上への効果的な指導法、②総合的な学習の時間と教科学習との関連付けの在り方、③評価法の改善の3点について、更なる検討を加えていくことを確認している。